

会 告

IGS日本支部 2012年通常総会 議事録（案）

日時：平成24年2月9日 16:00～17:00

場所：地盤工学会内

1. 出席者数の確認

【出席】個人会員：18+特別会員：6名（特別会員議決30票）

【委任状】個人会員：99名+特別会員：5社（特別会員議決25票）

189票のうち過半数（94.5票）を超えており総会は成立した。

2. 議長選出と議長挨拶

三木支部長を議長とする案が提案され、可決された。

『震災により混沌とした情勢が続いてきたが、ようやく復旧・復興の予算がまとまってきた。これから震災の復旧と復興にともなう需要が出てくるものと思われる。ジオシンセティックスを使用した対策工の普及を期待したい。そのほか最近、各地で発生している豪雨・豪雪など自然災害が激甚化してきている。激甚化する自然災害に備える技術としてジオシンセティックスを用いた技術が望まれると感じる。自然災害に備える日本の技術を復興国へ技術展開することなど今後の技術開発への取り組みに期待したい。』との挨拶があった。

三木支部長の挨拶に引き続き配付資料を用いて説明が行なわれた。

3. 2011年事業報告と2012年事業計画【資料-1】

1) 支部活動報告と活動計画（資料1-1）

会員数の報告と支部活動全体の報告が桑野副支部長よりあった。

- ① 理事会への出席（ダラス）※3.11地震の影響を受けた
- ② 会員名簿の提出などのIGS本部への対応
- ③ ジオシンセティックスシンポジウムの開催（2011年12月1～2日）
- ④ 電子ジャーナル化のほかWEBサーバーの移転
- ⑤ 刊行物の発行事業（名簿、技術情報、論文集）

2012年の活動計画の内容は2011年と概ね同様で進める。

2) 各委員会活動報告と活動計画（※報告要旨のみ記述／詳細は議事資料参照）

①編集委員会（木幡委員長）（資料1-2）

4回の編集委員会を開催。東日本震災について大学、各種機関の方々にそれぞれの立場からの「展望」の執筆をお願いした。12年3月号は鉄道総研 舘山部長/NEXCO 総研 横田様に執筆をお願いしている。

7月号は例年特集号としており、2012年は、道路土工/擁壁工指針・斜面安定工指針の改定版の発行に合わせ「ジオシンセティックス補強土擁壁」をテーマにする予定。

②試験法委員会（木幡委員長）（資料1-3）

現行の3つのJISの改定に照準することを確認した。あわせて、JISの分類を「L」から「A」への変更にも取り掛かることとする。

地盤工学会の規準部の活動と連動させて進めたのでIGSでは経費は発生しなかった。

2012年はコーポレートメンバー委員会との意見交換を継続的に実施する予定。

③行事委員会（内村委員長）（資料1-4）

シンポジウムは室蘭工大で開催。木幡先生等室蘭工大の実行委員会の多大な協力で開催した。

2012年度は東京で開催の予定とする。

今年度は新しい取り組みとして査読の時間を確保するために投稿の申し込みと本論文の提出を同時に行う予定。

④電子情報化委員会（小島委員長）（資料1-5）

HPのメンテ作業が中心。

WEBサーバーの変更を行った。（2012年1月から運用開始）

2012年度も同様の事業計画。

⑤コーポレートメンバー委員会（梶尾委員長）（資料1-6）

「技術情報」への会社紹介、特に大きな活動を行っていない。

2012年度は例年と同様の活動のほか、新技術委員会と協調して活動する。IGS本部理事選挙にともない名簿のメンテナンスと電子投票の支援を行う。

⑥表彰委員会（毛利委員長欠席／代理：内村幹事）（資料1-7）

IGS日本支部賞の選考が主な業務である。2011年度はIGS本部 Student Paper Award に許氏（神戸大学）を推薦した。

来年度も継続して行う。

⑦学生教育委員会（鎌尾委員長）（資料1-8）

入門セミナーと見学会が活動の中心。11月に圏央道の現場見学会を企画し実施した。

来年度もセミナー・見学会を中心に企画する。

⑧ジオメンブレン技術委員会（島岡委員長／代理：梶尾）（資料1-9）

第Vステージとしてポリウレタン、ポリウレアに代表される「液状遮水材料」の特性評価、施工性等の評価に取り組んでいる。第3回目委員会では清水建設、大野開発の協力により、愛媛県東温市「フレップとうおん」の施工現場を見学した。

2012年度は継続して「液体遮水材料」について整理する。

⑨ジオテキスタイル技術委員会（宮田委員長）（資料1-10）

ジオグリッド補強土擁壁の環境性能に関して、①環境負荷の評価方法 ②既設構造物の健全度・維持管理技術 ③補強材の製造開発時の環境負荷について検討した。

本委員会は国際補強土工法委員会（大谷委員長）の Japan Support Committee としても活動している。

2012年度も継続して活動する。

⑩新技術委員会（矢島委員長）（資料1-11）

外部研究資金の獲得について検討して実施した。あわせて研究テーマの募集を行ったが集まっていない。

2012年度コーポレートメンバー委員会と協調しながら継続して活動し、会員・非会員を問わず情報交換できる場作りを行う。

⑪新設委員会について（三木支部長）

地震だけでなく激甚化する自然災害（豪雨・豪雪）に対する復旧・復興に資する技術をファイリングして発行するよう委員会を新技術委員会、コーポレートメンバー委員会と協調して立ち上げる。

この委員会はコーポレートメンバーへのサービスにもなるものとする。

4. 財務委員会報告：伊藤委員長【資料－2】

1) 一般会計

「収入の部」(資料2－2)

予算と概ね同額。

「支出の部」(資料2－3)

支出は300万円の減少。

収入と支出実績は100万円の収入オーバー。

2) 2012年度会計予算(案)(資料2－4, 2－5)

収入は講習会収入の予算減のため昨年度よりもマイナス。支出は昨年度同様。

全体予算として、約200万円のマイナス予算となった。

5. 会計監査報告：山根会計監事(代理：江崎)(資料－3)

★監査報告は認められた

6. 質問と意見ほか

1) 各種委員会での予算がきちんと消化されていない。予算に合わせて委員会活動を活発にしてほしい。

(中村)

⇒各委員会とも活発に活動してくれている。震災後の多忙のなかでの委員会活動として評価する。

2) 地盤工学会からの「提言」に対して具体性をもたせるために工法等を提案する場を作った。3月中旬に印刷となるため、活用してほしい。(龍岡)

3) 国際本部における会議日程ほか、リマ会議、IS北海道、GeoAsiaの日程修正。

GeoAsiaでは桑野先生、勝見先生、小竹先生のKeynoteが予定されている。

日本支部の活動をIGSニュースに掲載するように働きかける。(大谷)

4) IGS理事会選挙の電子投票が始まるので協力をお願いしたい。(平井)

5) タイの洪水の状況と復旧計画についての話題提供(三木)

7. 議題の承認

★2011年事業報告／2012年事業計画／財務報告・予算計画について、すべて承認された

8. 役員の確認【資料－4】

役員名簿で2012年度の役員を確認した。

9. 閉会の挨拶：三木支部長

震災の復旧と復興に向けてジオシンセティックスの技術の普及があることを期待したい。

今後も日本支部の発展のためにご協力をお願いしたい。

以上：議事録作成 榊尾

<2011 年度事業報告及び 2012 年度事業計画>

1. 現況会員数 (2011 年 12 月 31 日現在)

正会員 226 名、特別会員 18 社、学生会員 17 名
(2010 年末の会員数: 正会員 223 名、特別会員 19 社、学生会員 16 名)

2. 日本支部の主な活動

1) IGS 理事会への出席 (敬称略)

2011 年 3 月 10~16 日

米国、Dallas・Sheraton Dallas Hotel

日本の出席者: 龍岡前会長、(桑野理事)

2) IGS 本部への会員名簿の提出

3) 2011 年 12 月 1-2 日 第 26 回ジオシンセティックスシンポジウム

4) 電子ジャーナル化:

論文集: 既に J-Stage 及び Journal@rchive にて公開中

技術情報: 2008 年以前は Journal@rchive に掲載。(2011 年 1 月に電子情報化作業開始)

2009 年以降は IGS 日本支部 HP で公開するよう準備中。

5) 国立情報学研究所の Web サービスが 2012 年 3 月で終了することから、日本支部 Web のサーバーを移設した。

3. 刊行物の発行事業

1) 国際ジオシンセティックス学会日本支部会員名簿

2) ジオシンセティックス技術情報 (3 月, 7 月, 11 月号)

3) ジオシンセティックス論文集第 26 巻

以上

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2011 年活動報告

(1) 2011 年編集委員会活動報告内容

- 1) 第 1 回編集委員会（日時：平成 23 年 1 月 28 日(金)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ '11 編集体制の確認・検討・決定，委員の交代（石川氏→江崎氏），委員の追加（松島氏，農工研）
 - ・ '11. 3 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
 - ・ '11. 7 月号の特集以外の内容に関する検討
 - ・ '11. 7 月号の特集についてはメール審議
 - ・「ジオシンセティックス使用量アンケート調査」について
 - ・担当者は中立的立場が望まれるので，メーカー所属者は担当できないこと等を勘案し，当面，見送ることとなった。
- 2) 第 2 回編集委員会（日時：平成 23 年 5 月 13 日(金)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ '11. 3 月号の申し送り事項と反省点の検討
 - ・ 電子情報委員会からの依頼事項（過去の技術情報誌のアーカイブ化）
 - ・ '11. 7 月号の目次案および編集工程の検討
 - ・ '11. 7 月号の特集に関する検討
 - ・ 3.11 東日本大震災を踏まえ，当初予定の特集「ジオシンセティックス補強土擁壁」を取りやめ，急遽，支部長及び被災地のジオシンセティックスに関わっている大学関係者や各機関の方々に，それぞれの立場から，展望として，特集を組むことにした。
 - ・ 技術賞推薦候補，技術奨励賞推薦候補の技術報文の選定方法についての検討（選定は投票，メール審議）
- 3) 第 3 回編集委員会（日時：平成 23 年 8 月 5 日(金)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ '11. 7 月号の進捗遅れの報告，未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
 - ・ '11.11 月号の目次案および編集工程の検討
 - ・ 7 月号に引き続き，展望として，ジオシンセティックスに関わっている各機関の方々に執筆依頼
 - ・ ジャーナルアーカイブへの登録完了の報告
 - ・ 技術賞推薦候補，技術奨励賞推薦候補の技術報文の選定結果報告
- 4) 第 4 回編集委員会（日時：平成 23 年 10 月 28 日(金)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ '11.11 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
 - ・ '12. 3 月号の目次案および編集工程の検討
 - ・ '12. 7 月号の特集に関する検討
 - ・ 11 年に計画した特集「ジオシンセティックス補強土擁壁」（道路土工／擁壁工指針・面安定工指針の改訂を踏まえて）とする。
 - ・ '12 編集体制の検討および決定，編集委員会開催時期の再考（2 月，5 月，6 月，10 月の 4 回）

(2) 2011 年委員会設営費報告

内 訳	予算 (円)	実績 (円)	備 考
① 委員会経費 ・ 編集委員会	200,000	64,000 67,000 63,000 6,000	第 1 回編集委員会交通費 第 2 回編集委員会交通費 第 3 回編集委員会交通費 第 4 回編集委員会交通費
合 計	200,000	200,000	

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2012 年活動計画

(1) 2012 年活動予定内容

<全体の活動内容>

定期発刊を心掛けるとともに、「技術報文」の投稿については、編集委員による情報収集のほか、シンポジウム掲載論文や他学協会の年次講演会を範疇に入れ、JC-JGS 技術賞候補論文および JC-JGS 技術奨励賞論文の対象に成り得るような質の高い「技術報文」の掘り起こしを積極的に行う予定である。

毎年、特集号として位置付けられる 7 月号については、道路土工/擁壁工指針・斜面安定工指針が改訂されたことを踏まえ、「ジオシンセティックス補強土擁壁」をテーマとして技術報文を募集する予定である。なお、本特集テーマは 2011 年に計画されていたが、2011 年の特集テーマは東日本大震災に関するテーマに変更した。

また、我が国におけるジオシンセティックス関連の規格・基準の整備の必要性が認識されつつあることから、ISO や ASTM で審議中の規格案に関する「審議情報」を積極的に掲載していくとともに、これまで同様、「修士、博士論文概要の紹介」などの掲載を引き続き行う。

<具体的な活動内容>

1. ジオシンセティックス技術情報の発行

ジオシンセティック技術情報は、従来通り年 3 回の発行とする。

(2012 年 3 月号, 2012 年 7 月号, 2012 年 11 月号)

2. 編集委員会

編集委員会においては、ジオシンセティックス技術情報を滞り無く発行するための定例業務として、目次案の検討や原稿執筆状況の確認などを行うとともに、編集に際しての問題点の解決を行う。また、継続的な審議事項として、編集方針や内容分類の整理、テーマ特集号の設定、新企画の検討など、読者のニーズに合うように check and review を積極的に行う。なお、5 月の編集委員会では、2012 年度技術賞、技術奨励賞の受賞候補となる技術報文の推薦選考を行う予定である。

開催予定：4 回程度（2 月，5 月，6 月，10 月を予定）

3. 編集WG

編集WGにおいては、幹事会および編集委員会で決定した編集方針に基づくジオシンセティックス技術情報の実質的な編集作業として、原稿の内容確認などを行う。なお、今年度の編集WG分担は以下に示す通りである。また、編集WGは、基本的にはメールで作業を行う。

12 年 3 月号：主査 川島委員，副査：内村委員，西村委員

7 月号：主査 榊尾委員，副査：土橋委員，川邊委員

11 月号：主査 荻迫委員，副査：江崎委員，原田委員

(2) 2012 年設営費計画

委員会設営費については、例年通りの交通費として以下の予算案としたい。

内 訳	24 年度予算案 (円)	備 考
① 委員会経費 ・編集委員会	200,000	委員会交通費 (70,000×2 回+30,000×2 回)
合 計	200,000	

ジオシンセティックス試験法委員会 2011 年活動報告

(1) 試験法委員会の活動概要

- ・地盤工学会基準部に平成 18 年度に新設された室内試験規格・基準検討委員会内のジオシンセティックス WG と連携して作業を進めている。
- ・2011 年度は、2010 年度に引き続き、現行のジオシンセティックスに関する 3 規格(JIS)の見直しや今後の対応について検討した。
 - ・現行 JIS の改訂作業について (JIS が「L」番号であるため「A」番号に変更することを、今後、検討)
 - ・ローラコンパクタ法による損傷試験については、ISO では、依然、TS (技術仕様書) のままなので、ISO 化するように、ISO/TC221 (ジオシンセティックス) に働きかけることとなった。
 - ・JIS のジオシンセティックス用語については、2010 年に編集委員会で作成して会員に配付した「ジオシンセティックス用語集」の内容を踏まえて、今後、JIS の大幅修正について検討する。

(2) 2011 年委員会設営費報告

2011 年度は、経費節減のため、メール審議を中心に活動したことと、地盤工学会／室内土質試験規格・基準委員会／WG6(ジオシンセティックス)と連動して委員会を開催したため、委員会設営費を使用せずに活動した。

内 訳	予算 (円)	実績 (円)	備 考
① 委員会経費 ・試験法委員会	200,000	0	
合 計	200,000	0	残 200,000 円

ジオシンセティックス試験法委員会 2012 年活動計画

(1) 活動計画

- 1) ISO で制定されている国際規格を参照しながら、今後、我が国において必要なジオシンセティックス基準を検討するとともに、土研センター、国内メーカー及び関連協会等と意見交換しながら、基準化すべき試験法を抽出する。
- 2) 国内のジオシンセティック試験法に対する要望を収集するために、継続的に、IGS 日本支部コーポレートメンバー委員会との意見交換会を実施する予定である。
- 3) ジオシンセティックスに関する JIS 3 規格の具体的な見直し作業について検討を行う予定である。

(2) 2012 年設営費計画

委員会を 2 回開催する予定であることから、以下の予算案としたい。

内 訳	2011 年度予算案 (円)	備 考
① 委員会経費 ・試験法委員会	200,000	委員会交通費 (100,000×2 回) 熊本あるいは苫小牧ー東京(2 回程度)
合 計	200,000	

行事委員会 2011 年活動報告

(1) 2011 年活動報告

第26回ジオシンセティックスシンポジウムを、12月1～2日に、室蘭工業大学で開催した。

- 2月 会場、日時の決定
- 3月 ジオシンセティックス技術情報、Web、メールでの発表論文募集への会告掲載
- 4月 地盤工学会・繊維学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼、広報依頼
- 5月24日 論文の申し込み締切（題目と概要）
- 6月9日 第1回行事委員会（論文概要の審査、セッション分けなど）
- 7月13日 本論文の提出締切
- 9月7日 第2回行事委員会（論文査読結果のまとめなど）
- 10月30日 本論文の修正原稿提出締切
- 11月31日 シンポジウム プレイベント（フットサル大会：22名）
- 12月1～2日 第26回ジオシンセティックスシンポジウム（室蘭工業大学・大学会館）
参加者91名、一般発表(33編)、特別講演(室蘭工業大学 木幡行宏教授)、
JC-IGS 論文賞・奨励賞・技術賞・技術奨励賞表彰式、懇親会60名
- 12月1日 第3回行事委員会

(2) 2011 年委員会設営費報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
委員会設営費	50,000	9,000	
交通費	(20,000)	(0)	
通信費・消耗品費等	(30,000)	(9,000)	会議費

(3) シンポジウム収支報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
第26回シンポジウム	-	-47,094	
収入	520,000 (400,000) (100,000) (20,000) - -	461,000 (313,000) (123,000) (11,000) - (14,000)	シンポジウム参加費 懇親会参加費 プレイベント（フットサル）参加費 論文集購入（現金0名） 請求書払い（3名）
支出	520,000 (0) (350,000) (10,000) (30,000) (100,000) (30,000)	508,094 (36,109) (367,290) (10,000) (4,215) (85,565) (4,915)	会場費・設営費 論文集印刷費 210部 特別講演謝礼・交通費 通信費・消耗品ほか 懇親会費 プレイベント（フットサル）経費

第26回ジオシンセティックスシンポジウム収支

	シンポ参加人数	収入額		懇親会参加人数	収入額
正会員	47	188,000	参加者	41	123,000
非会員	9	54,000			
招待	12	0	学生招待	8	0
優待	16	64,000		11	0
学生	7	7,000			
小計	91	313,000	小計	60	123,000
				参加収入総計	436,000
				請求書払い	14,000
				計	450,000

行事委員会 2012 年活動計画

(1) 2012 年活動予定内容

第 27 回ジオシンセティックスシンポジウムは、12 月上旬または 11 月下旬、東京で開催する。

1 月	シンポジウム論文募集会告（技術情報）原稿提出
2 月	地盤工学会、繊維学会へ共催依頼、技術情報誌、Web・地盤工学会誌・Web、メールなど広報
5 月	論文賞、論文奨励賞 推薦
6 月 1 日	シンポジウム投稿論文（申込み＋本論文） 締切
6 月中旬	査読依頼
7 月下旬	第 1 回行事委員会（論文審査のまとめ、プログラム概要決定、懇親会計画など）
8 月 10 日	査読結果返送
9 月 10 日	修正原稿締め切り
9～10 月	修正原稿の確認
9～11 月	技術情報誌、Web、メール、地盤工学会誌などにおける開催案内
11 月上旬	招待状発送（支部顧問、特別会員）、修正済み原稿取りまとめ、論文集作成
12 月上旬	第 27 回ジオシンセティックスシンポジウム（予定会場：地盤工学会館）

※第 27 回より、査読に時間をかけて充実させるため、概要の審査を省き、**投稿申込と同時に本論文を提出**する。

(2) 2012 年設営費計画

2012 年度予算（案）

内 訳	予 算	備 考
行事委員会設営費	100,000	
(内訳)	(25,000)	委員会交通費・事務局旅費ほか
	(25,000)	通信費・消耗品費等
	(50,000)	論文集編集アルバイト代
第 27 回シンポジウム	0	(東京)
(収入)	670,000	
	(450,000)	シンポジウム参加費
	(200,000)	懇親会参加費
	(20,000)	プレイベント参加費
(支出)	670,000	
	(0)	会場費・設営費
	(410,000)	論文集印刷費 210 部
	(50,000)	特別講演謝礼・交通費
	(30,000)	通信費・事務局旅費ほか
	(150,000)	懇親会費
	(30,000)	プレイベント経費

2012 年度 行事委員会名簿：

編集委員長	内村太郎（東京大学）	編集委員	中村 努（苫小牧高等工業専門学校）
顧 問	落合英俊（九州大学）	編集委員	西形達明（関西大学）
顧 問	嘉門雅史（香川工業高等専門学校）	編集委員	間 昭徳（三菱樹脂(株)）
編集委員	金子賢治（八戸工業大学）	編集委員	平川大貴（防衛大学校）
編集委員	河端俊典（神戸大学）	編集委員	峯岸邦夫（日本大学）
編集委員	熊谷浩二（八戸工業大学）	編集委員	安福規之（九州大学）
編集委員	小島謙一（(財)鉄道総合技術研究所）	編集委員	吉田浩一（前田工織(株)）
編集委員	小竹 望（香川工業高等専門学校）		

以上

電子情報化委員会 2011 年活動報告

(1) 2011 年活動報告内容

<主な活動内容>

- ・ HP の更新、改良 (ニュース、データベースなど)
- ・ 論文集の公開、技術情報誌の電子化
- ・ その他

1. HP の更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などについては HP 担当を中心として、更新等を実施した。また、HP 掲載に関する手続きを整理した。

また、これまで WEB サーバーとして利用していた国立情報学研究所の学協会情報発信サービスのホームページ構築・提供支援終了に伴い、サーバーの変更を行った。新サーバーは 2012 年 1 月から運営を開始した (旧サーバーについては 2012 年 3 月までは見ることができるが、1 月以降の更新は行わない)。

○現 URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jcigs/>

○新 URL <http://www.jcigs.org/> (2012 年 1 月より)

2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化

論文集 : J-Stage においてジオシンセティクス論文集を公開中

2007 年以前の論文については Journal@rchive において掲載 (下記 URL 参照)。

http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=jcigsjournal1986

技術情報誌 : 編集委員会と共同で電子化を進め、2011 年 11 月から Journal@rchive で掲載 (2008 年まで) を開始した。

「ジオシンセティクス技術情報」

http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=jcigstechnical1995

「ジオテキスタイル技術情報」

http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=jcigstechnical1985

これについては全ページとまらない場合があるので、別途、日本支部 HP で全文の掲載を行う予定である。

また、2009 年以降に発刊されたものについても日本支部 HP で掲載する予定である。

3. その他

- ・ GA2012 のサポートについて

2012 年 12 月にアジア地域会議 Geosynthetics Asia 2012(GA2012)において、昨年は発生したタイの洪水のため準備が遅れており、日本支部での HP 開設と Abstract 受領の依頼を受けた (桑野副支部長)。

これに伴い現地が復旧するまでの間、1)HP を日本支部におく、2)Abstract の申し込みアドレスを設け、タイへ転送する、というサポートを行うこととした。機関については、少なくとも 2012 年 2 月 15 日の Abstract の申し込み締め切りまでは、本体制でサポートし、タイ側と相談しながらサポートしていくこととした。

(2) 2011 年委員会設営費報告

予算 : 250,000 円

支出 : 80,250 円 (HP メンテナンス作業、J-Stage データ登録作業等)

残金 : 169,750 円 (返金)

*サーバー更新経費が、これまで事務局がメールサーバーとして契約している会社としたため、予算よりも大幅に経費削減を図ることができた。

電子情報化委員会 2012 年活動計画

(1) 2012 年活動予定内容

<主な活動内容>

- ・ HP の更新、改良（ニュース、データベースなど）
- ・ 論文集の公開、技術情報誌の電子化、公開
- ・ その他

1. HP の更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などについては HP 担当を中心として、更新等を実施する。各委員会との連携を強化して、より迅速かつ有用な情報発信を行っていききたい。

これまでの WEB サーバー（国立情報学研究所の学協会情報発信サービス）が終了する。新サーバーへの移行は既に行っているが、立ち上げ当初のトラブルがないように確認等を進めていきたい。

○URL <http://www.jcigs.org/>（2012 年 1 月より）

2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化

論文集：J-Stage においてジオシンセティクス論文集を公開中（年 1 回の追加）

技術情報誌：Journal@rchive で掲載中（2008 年まで）

全ページおよび 2009 年以降分については、日本支部 HP 内でのデータベースとして掲載を進める。

3. その他

- ・ GA2012 のサポートについて
2012 年 2 月 15 日の Abstract の申し込み締め切りまでは、本体制でサポートを行う。
- ・ 今後の活動について
HP の内容の充実を図るべく、掲載内容について検討を進めた。特に、IGS 日本支部の活動内容について充実を図るよう検討を進めている。
- ・ 委員が 1 名退任するので、別途 1~2 名追加予定である（希望者がいれば教えていただきたい）。

(2) 2012 年委員会設営費報告

予算：150,000 円

コーポレートメンバー委員会 2011 年活動報告

(1) 2011 年活動報告内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載した。
 - ・3月号 掲載なし
 - ・7月号 旭化成ジオテック, 太陽工業
 - ・11月号 前田工織

そのほか特に活動をしておりません。

(2) 2011 年委員会設営費報告

委員会設営費	:	収入	50,000 円
		支出	0 円
		残金	50,000 円

コーポレートメンバー委員会 2012 年活動計画

(1) 2012 年活動予定内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載する。
- コーポレートメンバー会議の開催
 - ⇒新技術委員会参加会社と協調して活動する
- 各委員会からの連絡事項への協力
- IGS本部名簿のメンテナンス
- その他/会社単位での入会勧誘活動を行う。

(2) 2012 年委員会設営費計画

委員会設営費	:	収入	50,000 円
--------	---	----	----------

※) 会議費等で使用予定

表彰委員会 2011 年活動報告

(1) 2011 年表彰委員会活動報告内容

- ・ 2011 年度 IGS 日本支部賞の選考
2011 年度 IGS 日本支部賞は下記の各賞について表彰規定により、表彰委員会にて選考した。
2011 年 12 月 1 日のシンポジウム開催時に表彰を行った。以下に表彰者を示す。

①JC-IGS 論文賞

(ジオシンセティックスに関する学術および技術の進展に顕著な貢献をした論文の著者)

永谷 達也・田村 幸彦・飯島 正敏・小島 謙一
「GRS 一体橋梁 (実物大試験) の施工と動態計測」

Angelica Naka・Zhenze Li・乾 徹・勝見 武・最上 裕生

「Heavy metal retention in geosynthetic clay liners and its potential role in acid rock drainage treatment」

②JC-IGS 論文奨励賞

(ジオシンセティックスに関する研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者)

松野 剛
「施工時の損傷レベルが HDPE ジオグリッドの引張強度特性に及ぼす影響」

③JC-IGS 技術賞 (ジオシンセティックスに関する技術の進展に顕著な貢献をした、個人・グループ)

小林 幹人・関 雅樹・渡邊 康人・可知 隆・古関 潤一
「ジオテキスタイル材料で補強したバラスト軌道の振動台実験」

④JC-IGS 技術奨励賞

(ジオシンセティックスに関する技術的研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者)

三浦 均也・浅原 信吾・森政 信吾・大塚 夏彦・小浪 岳治
「透水性コラム工法による海底地盤安定化効果」

・ IGS 本部 Student Award の推薦

日本支部内で公募、選考の上、1 名を推薦した。
許 晋碩 (ホー ジンソク) 神戸大学大学院 工学研究科 博士後期課程

(2) 2011 年表彰委員会設営費報告

2011 年設営費	150,000 円
賞状費用	7,120 円
盾費用	62,265 円
計	69,385 円

表彰委員会 2012 年活動計画

(1) 2012 年表彰委員会活動予定内容

- ・ 2012 年度 IGS 日本支部賞の選考、報告など
- ・ IGS 賞本部賞選考などのお手伝い

(2) 2012 年表彰委員会予算案

盾、賞状作成費として 150,000 円

以上

学生・教育委員会 2011 年活動報告

(1) 2011 年活動報告内容

1) 委員会開催内容

第 1 回 学生・教育委員会

開催日：2011 年 6 月 1 日

会 場：地盤工学会会議室

内 容：委員会運営方法について

見学会・入門セミナーの開催について

第 2 回 学生・教育委員会

開催日：2011 年 11 月 15 日

会 場：地盤工学会会議室

内 容：見学会の反省会

2) 行事開催

現場見学会

開催日時：2011 年 11 月 15 日（火）

見学場所：首都圏中央連絡自動車道 真名地区工事現場

参加人数：26 名（正会員：9 名、非会員：1 名、学生（会員・非会員）：16 名）

(2) 2011 年委員会設営費報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
委員会設営費			
会議費	36,000	18,200	委員交通費、食事代
入門セミナー経費※	40,000	0	
見学会経費	24,000	73,800	バスチャーター代 学生アルバイト代
合計	100,000	92,000	

学生・教育委員会 2012 年活動計画

(1) 2012 年活動予定内容

1) 委員会開催

入門セミナー・見学会等の企画および技術資料の提供等に関して年 3 回程度の委員会を開催予定。

2) 行事開催

第 13 回ジオシンセティックス入門セミナー

現場見学会

(2) 2012 年設営費計画

内 訳	予 算
委員会設営費	
会議費	20,000
見学会経費	40,000
入門セミナー経費	40,000
合計	100,000

ジオメンブレン技術委員会（第Ⅴステージ）2011年活動報告

(1) ジオメンブレン技術委員会 2011年活動報告

第Ⅴステージでは、最終処分場の新設・リニューアル、不適正処分場の適正化、土壌汚染対策における新しい遮水材料、施工技術、維持管理技術として「液状遮水材料」に着目し、各種液状遮水材料の特性、評価方法（試験項目・方法）と施工性（施工・管理方法）、技術的課題について、最終処分場（液状遮水材料による施工）現地見学会を交えて検討を行った。



(2) 2011年委員会設営費報告

委員会開催、管理型最終処分場(吹き付けシート工法)現地見学会実施

2011年 委員会設営費報告（自2011年1月1日～至2011年12月31日）

科目	予算	決算	備考
1. 委員交通費	¥180,000-	¥182,295-	委員会4回開催、現地見学会
2. 通信・消耗品費	¥20,000-	¥3,220-	郵便、通信、資料コピー、封筒等
合計	¥200,000-	¥185,515-	

ジオメンブレン技術委員会（第Ⅴステージ）2012年活動計画

(1) 2012年活動計画

本年度は、既往の遮水シート基準をベースに、「液状遮水材料」としての評価方法（試験項目・方法）について整理し、管理値（基準値、安全率等）の設定および施工性（施工・管理方法）ならびに留意点等についてとりまとめを行う予定である。

委員会組織

委員長： 島岡 隆行（九州大学大学院工学研究院）
 副委員長： 勝見 武（京都大学大学院地球環境学学）
 副委員長： 熊谷 浩二（八戸工業大学大学院工学研究科）

(2) 2012年設営費計画

2012年度 委員会予算（自2012年1月1日～至2012年12月31日）

科目	予算	備考
1. 委員交通費	¥180,000-	委員会4回開催（¥45,000×4回=¥180,000-）
2. 通信・消耗品費	¥20,000-	郵便、通信、資料コピー、封筒等
合計	¥200,000-	

ジオテキスタイル技術委員会(第Vステージ)2011年活動報告

(1) ジオテキスタイル技術委員会 2011年活動報告

ジオテキスタイル技術委員会では、第Vステージとしてジオグリッド補強土壁構造物の環境性能に関する検討として3つのWGを構成し、活動を行った。各WGは、ジオグリッド補強土壁構造物の環境性能に関して、WG1：環境負荷（LCC02）の評価法、WG2：既設構造物の健全度評価法と維持管理技術、WG3：ジオグリッドの製造・廃棄における環境負荷低減化について検討することとした。

2011年は2回の全体委員会と4回のWGを実施した。その議事は下記の通りである。

- 第2回全体委員会：平成23年6月15日、14：30-17：00、地盤工学会中会議室
 - 1) 環境関連の国内・海外動向について
 - 2) 各WGの活動内容について
 - 3) 全体スケジュールについて
- 第1回WG2：平成23年7月26日、14：00-16：00、鉄道総研 東京オフィス
 - 1) WG2の進め方について
 - 2) 鉄道・道路・港湾構造物の維持管理について
- 第1回WG1：平成23年9月16日、14:00-17:00、地盤工学会小会議室
 - 1) LCC、LCC02の評価方法について
 - 2) 被災時における経済的な損失について
- 第1回WG3：平成23年10月26日、17:00-18:30、地盤工学会小会議室
 - 1) WG3の進め方について
 - 2) 製品のリサイクルについて
- 第2回WG1：平成23年11月29日、14:00-17:00、地盤工学会中会議室
 - 1) LCC、LCC02評価のシナリオについて
 - 2) 検討条件のすり合わせ
- 第3回全体委員会：平成23年12月14日、14：00-17：00、地盤工学会地下会議室
 - 1) 環境関連の国内・海外動向について
 - 2) 各WGの進捗状況について
 - 3) 全体スケジュールについて

(2) 2011年委員会設営費報告

2011年 委員会設営費報告（自2011年1月1日～至2011年12月31日）

科 目	予 算	決 算	備 考
1. 委員交通費	¥180,000-	¥104,000-	委員会交通費(6/15, 7/26, 9/16, 12/14)
2. 通信・消耗品費	¥20,000-	¥420-	振込み手数料
合 計	¥200,000-	¥104,420-	

ジオテキスタイル技術委員会(第Vステージ)2012年活動計画

(1) 2012年活動計画

ジオテキスタイル技術委員会第Vステージ(2010年1月～2012年12月)では、ジオグリッド補強土壁の環境負荷低減効果の評価法の確立を目標に全体委員会を年2回、WGを年5回開催する予定である。

委員会組織

委員長： 宮田 喜壽(防衛大学校 建設環境工学科)

委員： 11名

(2) 2012年設営費計画

2012年度 委員会予算(自2012年1月1日～至2012年12月31日)

科目	予算	備考
1. 委員交通費	¥180,000-	全体委員会：¥40,000(1回)×2回=¥80,000- WG：¥20,000(1回)×5回=¥100,000-
2. 通信・消耗品費	¥20,000-	郵便, 通信, 資料コピー, 封筒等
合計	¥200,000-	

新技術委員会 2011 年活動報告

(1) 2011 年活動報告内容

新技術委員会では 2011 年の活動として、

- ① ジオシンセティックスの新技術情報の調査・研究や新技術委員会の活性化を目的として、委員会として 1 つテーマを模索し、研究・実験を行うために外部資金の獲得する活動
 - ② ジオシンセティックスの新技術に関するデータベースの作成
 - ③ 新技術関連の講演会の開催を計画した。
- ①については、4 月 17 日より研究テーマの募集を行い、8 月 31 日の第 1 回委員会において研究テーマの選定を行った。応募された研究テーマは 0 件であり、委員会において議論を行ったが、今年度は東日本大震災もあり地震に対する研究テーマがよろしいとの意見もあったが、委員会として一つの研究テーマに絞り込むことが出来なく、未応募となった。
- ②については、ジオシンセティックスの新技術に関するデータベースの作成については進捗なしとなった。
- ③については、講演会講師の選定がなかなか決まらず、未開催のまま現在に至っている。

新技術委員会の 2011 年活動内容を下表に示す。

	日時	場所	議事内容	備考
	平成 23 年 4 月 17 日	メール審議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2011 年活動方針 ・ 2011 年スケジュール ・ 新技術情報の調査・研究について 	
第 1 回	平成 23 年 8 月 31 日	(社)地盤工学会	<ul style="list-style-type: none"> ・ データベース進捗状況 ・ 新技術情報の調査・研究について ・ 今後の予定 	
第 2 回	平成 24 年 1 月 27 日	(社)地盤工学会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の新技術委員会のあり方について 	

(2) 2011 年委員会設営費報告

2011 年の設営費報告を以下に示す。

収入	支出	残額	支出項目	備考
150,000	0	150,000	---	

新技術委員会 2012 年活動計画

(1) 2012 年活動予定内容

新技術委員会では委員長の退任の意向もあり、後継委員長の選出を行ったが適任者の選出がうまく行かなかった。また、新技術委員会の今後の存続についても平成 24 年 1 月 27 日の第 2 回委員会において議題として議論した。第 2 回委員会での議論の結果、新技術委員会は 2011 年度を持って解散し、コーポレート委員会の中で存続するとの意見もあったが、会員・非会員を問わない情報交換の場、特に各企業で現在どのような仕事（工事や材料について）を行っているのか発表し意見交換をする場、そしてできれば年 1 回でも現場や工場見学を開催する場として存続するべきとの意見が多数となり、2012 年はこのような方向で新技術委員会を存続することとなった。そして新体制として、委員長：矢島、副委員長：満尾、幹事：峯岸、オブザーバー：福田、伊藤となった。

(2) 2012 年設営費計画

2012 年の設営費計画を以下に示す。

会議費	講演会費	計	備考
100,000	50,000	150,000	

財務委員会 2011 年報告

(1) 2011 年度会計決算 (別紙 参照)

収入は、予算と実績はほぼ同額となった。

支出は、全科目とも予算より少なくなり、全体では 300 万円ほどの減少となった。

繰入れ費を除いた収入実績は 7,153,745 円、支出実績は 6,120,638 円となり、1,033,107 円の収入オーバーとなった。

(2) 2012 年度会計予算 (別紙 参照)

収入は、講習会収入減予算のため、昨年度より約 30 万円の減少の 6,829,000 円とした。

支出は、昨年度とほぼ同額の 9,024,000 円とした。

したがって、今年度の予算は 2,195,000 円のマイナス予算である。

2013 年度への繰越金は 18,988,316 円となった。

IGS日本支部 2011年度会計決算
 期間: 2011年1月1日～2011年12月31日

平成24年2月2日

収入の部

科 目	2011年予算	2011年実績	備 考
1. 会費等収入			
①2011年度分			
法人会員	4,320,000	4,560,000	19社×240,000円/社
個人会員	1,600,000	1,368,000	171名×8,000円/人
学生会員	20,000	13,000	13名×1,000円/人
		296,000	滞納分
②本部還付金			
法人会員分	74,700	73,665	18社×50\$×81.85円
払い戻し分		39,288	16名×30\$×81.85円
(小計)	6,014,700	6,349,953	
2. 講習会・出版等収入			
シンポジウム	670,000	447,000	参加費+懇親会収入(フットサル参加費含む)
講習会, 見学会他	10,000	11,000	参加費
書籍, ビデオ等販売	10,000	8,000	
書籍印税	0	0	
(小計)	690,000	466,000	
3. 広告等収入			
技術情報誌広告	450,000	336,000	3月号、7月号、11月号
(小計)	450,000	336,000	
4. 受取り利息等			
受取り利息	10,000	1,792	
その他	0	0	
(小計)	10,000	1,792	
(収入合計)	7,164,700	7,153,745	
5. 繰越し金			
繰越し金	20,150,209	20,150,209	2010年から2011年への繰越し金
(小計)	20,150,209	20,150,209	
(収入総合計)	27,314,909	27,303,954	

支出の部

平成24年2月2日

科 目	2011年予算	2011年実績	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出			担当:事務局
法人会員	1,577,000	1,473,300	18社×1000 \$ /社×81.85円
個人会員	547,800	535,299	218名×30 \$ /名×81.85円
学生会員	0	0	20名×0円/名
(小計)	2,124,800	2,008,599	
2. 講習会・出版等支出			
シンポジウム	670,000	508,094	担当:行事委員会
講習会・見学会補助費	100,000	0	
税金、原稿料等	50,000	0	税金,原稿料,アルバイト代
(小計)	820,000	508,094	
3. 技術情報発行費			担当:編集委員会,(名簿:事務局)
技術情報誌印刷製本費	1,550,000	1,144,500	140万(情報誌)+15万(名簿作成費)
編集補助作業,原稿料他	50,000	13,000	アルバイト代,原稿料
発送,連絡費	250,000	213,770	3月号,7月号,11月号発送費用
(小計)	1,850,000	1,371,270	
4. 委員会経費			担当:各委員長
国際連絡委員会	1,000,000	106,770	理事会派遣費
コーポレート委員会	50,000	0	
編集委員会	200,000	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	100,000	9,000	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	69,385	委員会費5万+盾,賞状作製費10万
技術委員会	0	0	
ジオテキスタイル技術委員会	200,000	104,420	
ジオメンブレン技術委員会	200,000	185,515	
新技術委員会	150,000	0	
ジオシンセティック試験法委員会	200,000	0	
学生教育委員会	100,000	92,000	見学会,入門セミナー
電子情報委員会	250,000	80,250	新規HPの契約,データ移行作業
財務委員会	0	0	
技術普及委員会	0	0	
(小計)	2,600,000	847,340	
5. 事務局経費,その他			担当:事務局
總會	60,000	68,996	總會+懇親会費
地盤工学会謝礼	350,000	318,516	地盤工学会謝礼(30万円)+会議室使用費・コピー代(5万円)
事務局費	100,000	100,000	埼玉大学コピー代その他(2011年分)
通信費	80,000	117,460	
消耗品費	200,000	28,388	
備人費	750,000	640,200	事務局備人費
幹事会	40,000	13,000	会議費,幹事交通費,通信費資料購入など
その他	50,000	98,775	事務局交通費,慶弔費等,送金費,謝金
(小計)	1,630,000	1,385,335	
(支出合計)	9,024,800	6,120,638	
6. 予備費・繰入れ費			
	18,290,109	21,183,316	2011年から2012年への繰越金
(支出総合計)	27,314,909	27,303,954	

IGS日本支部 2012年度会計予算
 期間:2012年1月1日～2012年12月31日

平成24年2月2日

収入の部

科 目	2012年予算	備 考
1. 会費等収入		
①2012年度分		
法人会員	4,320,000	18社×240,000円/社
個人会員	1,600,000	200名×8,000円/人
学生会員	15,000	15名×1,000円/人
②本部還付金	72,000	18社×50\$ (80円/\$)
(小計)	6,007,000	
2. 講習会・出版等収入		
シンポジウム	450,000	参加費+懇親会収入(フットサル参加費含む)
講習会, 見学会他	10,000	参加費
書籍, ビデオ等販売	10,000	
書籍印税		
(小計)	470,000	
3. 広告等収入		
技術情報誌広告	350,000	3月号、7月号、11月号
(小計)	350,000	
4. 受取り利息等		
受取り利息	2,000	
その他	0	
(小計)	2,000	
(収入合計)	6,829,000	
5. 繰越し金		
繰越し金	21,183,316	2011年から2012年への繰越し金
(小計)	21,183,316	
(収入総合計)	28,012,316	

支出の部

科 目	2012年予算	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出		担当:事務局
法人会員	1,440,000	18社×1000 \$ /社×80円/\$
個人会員	504,000	210名×30 \$ /名×80円/\$ (222名 2011年末)
学生会員	0	20名×0円/名
(小計)	1,944,000	
2. 講習会・出版等支出		担当:行事委員会
シンポジウム	500,000	
講習会・見学会補助費	100,000	
税金、原稿料等	0	税金,原稿料,アルバイト代
(小計)	600,000	
3. 技術情報発行費		担当:編集委員会, (名簿:事務局)
技術情報誌印刷製本費	1,350,000	120万(情報誌)+15万(名簿作成費)
編集補助作業, 原稿料他	50,000	アルバイト代, 原稿料
発送, 連絡費	250,000	3月号、7月号、11月号発送費用
(小計)	1,650,000	
4. 委員会経費		担当:各委員長
国際連絡委員会	1,500,000	理事会派遣費
コーポレート委員会	50,000	
編集委員会	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	100,000	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	委員会費5万+盾, 賞状作製費10万
技術委員会	200,000	新設委員会
ジオテクスタイル技術委員会	200,000	
ジオメンブレン技術委員会	200,000	
新技術委員会	150,000	
ジオシンセティック試験法委員会	200,000	
学生教育委員会	100,000	見学会, 入門セミナー
電子情報委員会	150,000	HPの更新・改良
財務委員会	0	
(小計)	3,200,000	
5. 事務局経費,その他		担当:事務局
総会	70,000	総会+懇親会費
地盤工学会謝礼	350,000	地盤工学会謝礼(30万円)+会議室使用費・コピー代(5万円)
事務局費	100,000	埼玉大学コピー代その他
通信費	120,000	
消耗品費	100,000	
備人費	750,000	事務局備人費
幹事会	40,000	会議費, 幹事交通費, 通信費資料購入など
その他	100,000	事務局交通費, 慶弔費等, 送金費, 謝金
(小計)	1,630,000	
(支出合計)	9,024,000	
6. 予備費・繰入れ費		
2012年から2013年への繰越金	18,988,316	
(支出総合計)	28,012,316	

監 査 報 告 書

国際ジオシンセティックス学会日本支部の2011年一般会計について帳簿・証票・書類等を検証の結果、適正かつ正確であることをご報告申し上げます。

平成24年2月9日

会計監事 間 昭徳

署名

間 昭徳 

会計監事 山根 直樹

署名

山根直樹 

IGS日本支部 2012年度 役員名簿

2012年2月9日

支部長	*三木 博史	(三木地盤環境工学研究所)
副支部長	*桑野 二郎	(埼玉大学)
幹事長	*平井 貴雄	(三井化学産資)
副幹事長	宮田 喜壽	(防衛大学校)
副幹事長	横田 善弘	(前田工織)
会計・幹事	*伊藤 雅夫	(前田工織)
幹事	今泉 繁良	(宇都宮大学)
幹事	内村 太郎	(東京大学)
幹事	*大谷 順	(熊本大学)
幹事	鎌尾 彰司	(日本大学)
幹事	*嘉門 雅史	(香川工業高等専門学校)
幹事	清川 伸夫	(東京インキ)
幹事	*熊谷 浩二	(八戸工業大)
幹事	小島 謙一	(鉄道総合技術研究所)
幹事	古関 潤一	(東京大学)
幹事	*木幡 行宏	(室蘭工業大学)
幹事	*島岡 隆行	(九州大学)
幹事	龍岡 文夫	(東京理科大学)
幹事	矢島 寿一	(明星大学)
幹事	榊尾 孝之	(太陽工業)
幹事	*満尾 淳	(東急建設)
幹事	*峯岸 邦夫	(日本大学)
幹事	*椋木 俊文	(熊本大学)
幹事	毛利 栄征	(農村工学研究所)
監事	間 昭徳	(三菱樹脂)
監事	山根 直樹	(ユニチカ)
事務局	伊集院紀子	(IGS 日本支部事務局)
支部顧問	赤木 俊允	(東洋大学名誉教授)
支部顧問	岩崎 高明	(エス・エヌ・テーエンジニア)
支部顧問	田中 茂	(神戸大学名誉教授、(財)建設工学研究所)
支部顧問	福岡 正巳	(土木研究センター)

*再任、 #新任